

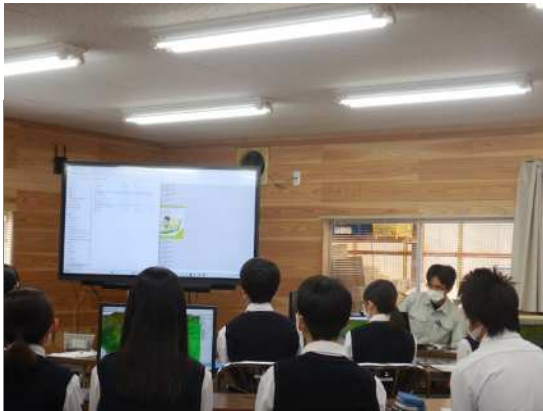
## ①益田高校1年生が林業や地籍調査、ドローン測量について学びました！

10月3日（火）に益田高校1年生16名が、高津川森林組合の事業所にて地籍調査や林業、ドローンを使用した航空測量について学びました。

当日はまず、座学として高津川流域三市町の地籍調査の状態や森林を育成するにはどういった作業があるかを学びました。座学の後にはドローンの操作体験を行い、実際に撮影しました。また、飛行体験の後には実際に撮影した写真を使用し、GISの操作を行いました。

参加した生徒からは、「ドローンの最高速度はどれくらいか」「林業の人はどう増減しているか」のほか測量機械や施業内容など幅広い質問がありました。

今回の体験を通じて、生徒は林業やICT技術について理解を深めていました。



森林測量に関する授業



ドローン飛行体験

## ②益田翔陽高校2年生が林業体験と治山工事の見学を行いました！

10月26日（木）に益田翔陽高校の2年生17名が、津和野町内で林業機械の体験と治山工事の見学を行いました。

午前中は津和野林産（株）の間伐現場を見学した後、土場でチェーンソー体験やグラップルの操作体験を行いました。チェーンソーの体験では、丸太切り体験だけでなく、ソーチェーンのどの部分が切れるか、こういった手入れを行っているかなど詳細な説明を受けていました。グラップルの体験では複数本の丸太をきれいに並べられるように指導を受けました。

午後は林業施業と治山林道に関する座学を受けた後、（株）堀建設の治山工事現場の見学を行いました。現場では作業中の治山施設を見学したり、ICT測量を体験したりしました。

参加した生徒さんは、積極的に体験や質問を行い、林業や治山事業の意義について理解を深めていました。



グラップルの操作体験



治山工事現場の見学

**③ 益田市喜阿弥町にて中型動物対策研修会が開催されました！**

10月31日(火)に益田市立開発地営農研修センターにて、中型動物対策研修会を開催されました。この研修会は石西地域農林振興協議会主催で行われ、15名の方が参加されました。講師には、動物の視点から見る野生動物対策に取り組まれており、現在、美郷町にて実践的な野生動物対策の普及活動を行われている麻布大学フィールドワークセンター長 江口祐輔教授をお招きしました。

研修では、はじめに座学が行われ、中型動物の生態から、どのような経路で侵入し被害を及ぼすのかを動画を交えながらわかりやすく解説していただきました。その後、周辺圃場に出向き、実際にアライグマなどの野生動物が定着、侵入しやすい環境や、その対策ポイントを1つ1つ教えていただきました。研修参加者からは、「動物の視点での考えを持っていなかったのも、そこが大事だと思った」「電気柵の設置のポイント等、知ることが出来てよかった」といった感想をいただきました。

近年、益田市ではアライグマやヌートリアなど、特定外来生物による被害が増えているといった声が聞かれます。人目線だけでなく、動物目線から見た対策を実践し、大切な作物を守りましょう！



センターで座学を受ける参加者



現地視察研修の様子